

〇〇という仕事

世の中にはたくさんの仕事があります。その中には私たちが知らない職業や仕事内容もあることでしょう。

そこで、今回は「仕事」をテーマに本を集めました。是非様々な仕事の世界に触れてみて下さい。

職業相談員という仕事



『ハロー！』

久保寺 健彦著
集英社
Fク
篠崎ほか所蔵

ハローワークと言えば仕事を探しに行く場所ですが、仕事を紹介してくれるハローワークに勤めている人はどんな気持ちで仕事をしているのでしょうか。この小説は、ハローワーク宮台で相談員として働く28歳の新人の主人公が、次々訪れるワケありの面倒くさいけど憎めない求職者たちに出会い、奮闘する8編のお仕事青春小説です。人の数だけ色々な人生がある。そのことをあらためて感じる場所、それがハローワークなのではないでしょうか。

適正タイプ

世話焼き力 ★★★★★
コミュニケーション力 ★★★★★
忍耐力 ★★★★★

脚本家という仕事



『ゼロからの脚本術
10人の映画監督・
脚本家のプロット論』
泊 貴洋編
誠文堂新光社
901セ
篠崎ほか所蔵

脚本に大切な要素はプロットです。プロットとは物語のあらすじのこと。プロットの良し悪しで物語の全体が決まってきます。現代の名作と言われるドラマや映画、それを作り出している脚本家や監督はどうやって作品を作っているのでしょうか。本書は実際の作り手にインタビューをし、プロットの作り方、脚本の書き方を探っています。脚本家や監督を目指している人はもちろん、映画やドラマ好きな人にも、あの作品の裏側や作り手の真意がわかる本です。

適正タイプ

妄想力 ★★★★★
発想の転換 ★★★★★
いろんな角度からモノが見れる ★★★★★

占い師という仕事



『占い師入門』
高橋 桐矢著
雷鳥社
148夕
篠崎ほか所蔵

将来のこと、恋愛のこと、自分の人生のすべてのこと。不安になったとき相談してみたい人——それは「占い師」。その占い師には一体どういったらなれるのでしょうか。特別な能力を持った選ばれし人なのでしょうか。この本には、占い師の一日の仕事やお給料、占いの種類や学習方法から、開業の仕方まで、「占い師になるための方法」が詰まっています。また、これを読めば占い師が認める「本物の占い師」についても知ることが出来ます。意外と普通で、でもやっぱり不思議な「占い業界」の扉を開けてみましょう！

適正タイプ

人生経験豊富 ★★★★★
傾聴力 ★★★★★
霊能力 ????

そのメロディに魅せられて♪

『彩り』（「Mr.Children 2005-2010」収録）

Mr.Children K1ミ08790 篠崎ほか所蔵

この曲は何年前かにCMで流れていたのをきっかけに知りました。どんな小さな仕事も誰かの為になっている、意味のあることなんだという歌です。仕事に追われ忙しく過ごしていると、あっという間に毎日が過ぎていき、仕事の意

味など考える余裕もないように思います。この曲は自分の仕事や生活を改めて見つめ直させてくれる歌詞になっていて、働くことの大切な部分を思い出せる曲です。是非一度聞いてみて下さい。

立ち食い蕎麦屋という仕事



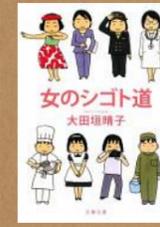
『ホームにて、蕎麦』
（「そういうものだろ、仕事っていうのは」所収）
重松 清ほか著
日本経済新聞出版社
Fソ
篠崎ほか所蔵

この本は「働く」をテーマに6人の作家たちが書いた短編小説をまとめた一冊です。「ホームにて、蕎麦」は、父親が定年後、第二の人生として駅のホームでよく見かける立ち食い蕎麦屋でアルバイトを始める話。周りから何を思われようと自分のやりたい仕事を誇りを持ってやる姿はとても印象的です。なぜ立ち食い蕎麦屋なのか、その理由に私は仕事や人生について考えさせられました。そして、読後は無性に月見蕎麦が食べたくなります。

適正タイプ

器用さ ★
俊敏性 ★
心の若さ ★★★★★

美容部員という仕事



『女のシゴト道』
大田垣 晴子著
文春文庫
B366オ
篠崎ほか所蔵

美容部員は綺麗で品のある女性というイメージが強いかと思いますが、見た目とは裏腹に、長時間の立ち仕事や接客などと大変な点も沢山あるそうです。しかし、大変なことだけではないようで、この本に登場する美容部員からは、働くことで得られる充実感や仕事を愛する想いが伝わってきます。この本は様々な職業で活躍する女性30人に取材をしています。登場する人たちは皆キラキラ輝いていて、女性のパワーを感じられる本です。

適正タイプ

女子力 ★★★★★
忍耐力 ★★★★★
お肌の強さ ★★★★★

画家という仕事



『ピエール・グラスール』
（「サラジーン」所収）
バルザック著
岩波文庫
B953ハ
篠崎ほか所蔵

凡庸な画家ピエールは、整理整頓されたアトリエで毎朝決まった時間に起き、コトコトと数多くの絵を描いてきた。作品は、過去の大家の模倣につぐ模倣。しかし、どういうわけか驚異的な成功を収めてしまう。彼は誠実で善良な、努力を惜しまぬ人間だった。そのため周囲から同情はされても、ひがみや非難を受けることはなかった。「ねたみが偉大な画家をくじくように、同情は凡庸な画家を育てる」。彼はこの言葉通りの画家だったのである。

適正タイプ

才能 ★
誠実さ ★★★★★
模倣を気にしない強い心 ♡♡♡

刑事という仕事



『警官嫌い』

エド・マクベイン著
ハヤカワ・ミステリ文庫
B933マ
篠崎ほか所蔵

「警察小説」という分野を確立した87分署シリーズの第1作目。警官が次々と殺されていく中、87分署の刑事達が全力をあげて犯人を捜していくのだが、開巻冒頭に「警察活動は実際の捜査方法に基づいている」と書かれている通り、本書にはその当時の、アメリカの捜査方法が描かれている。この小説を読むと刑事という仕事は結局「脚と粘り」に尽きると言える。そして、あとは事件解決につながる出来事に出会うという幸運を、待つのみなのだ。

適正タイプ

脚力 ★★★★★
忍耐力 ★★★★★
運が無い ☹☹☹

書店員という仕事



『書店ガール』
碧野 圭著
PHP文芸文庫
BFア
篠崎ほか所蔵

お嬢様育ちで気が強い新婚の亜紀と、上司の仕事大好き独身アラフォー副店長の理子。2人は何かと気が合わず、職場の雰囲気もギスギスしてしまっています。そんな2人の働く書店にある日、大ピンチが!! 初めは人間関係がドロドロしていて、女って面倒くさいなと思わせますが、後半はその重い感じを吹き飛ばすくらいの爽快感があります。また、書店が舞台なので、本の話題が至る所で出てきます。本好きにオススメの一冊です。

適正タイプ

体力 ★★
協調性 ★
本が好き！な想い ★★★★★

カフェオーナーという仕事



『コーヒーもう一杯』
平 安寿子著
新潮社
F夕
篠崎ほか所蔵

アラサーの山守未紀は、内装デザイン会社の営業。恋人に振られ、仕事では依頼人と大喧嘩してしまう。人生のピンチに、カフェ開店を思いつく。周りのサポートを受けて、カフェを開店させたが経営は困難を極める……。物件選びや資金繰りなど開店までのプロセスが細かく描かれているので、お店を出そうと思っている方は必読です。私はオープンした店の9割が一年以内に撤退するという事実にお店を維持することの大変さを知りました。

適正タイプ

経営力 ★★★★★
料理力 ★★★★★
笑顔 ★★★★★

作家という仕事



『お菓子和ビール』
モーム著
岩波文庫
B933モ
篠崎ほか所蔵

著者円熟期の代表作。モームは否定しているが、作家ハーディがモデルと言われている。この作品には文豪と二人の作家（語り手も含む）が出てくるのだが、他の二人に対する語り手の容赦ない批評は、作家という人種の、感性が鋭いが故の冷酷さを垣間見せている。辛い体験をも作品にしてしまうということ、また作家周辺の心ない人々のことなど、作家であるが為の不幸も冷徹に描かれていて、改めて作家という職業は大変だなと思わされる作品である。

適正タイプ

風刺能力 ★★★★★
ユーモア ★★★★★
冷酷さ ★★★★★

大工という仕事



『火天の城』
山本 兼一著
文芸春秋
Fヤ
篠崎ほか所蔵

時は戦国時代。天下統一目前の織田信長に、大工の棟梁・岡部又衛門が依頼されたのは、天下一の城。信長の無理難題に息子・以俊と共に挑む。同業者との確執、甲賀者の妨害などを乗り越えて、安土城建築に挑んだ戦国版プロジェクトXです。建築に使用する柱や瓦などを自ら吟味し、作業場も逐一確認して回る又兵衛。職人は頑固で厳しいというイメージでしたが、依頼された仕事に対して妥協せず、職人としての矜持を持って取り組んでいるからだ、この本を読んで分かりました。

適正タイプ

器用さ ★★★★★
創造力 ★★★★★
城の声を聞くことができる ★★★★★

消防士という仕事



『鎮火報』
日月 恩著
講談社文庫
BF夕
篠崎所蔵

新米消防士の大山雄大は「楽しくお金を稼ぎたい」という今風の若者。本書はそんな雄大が外国人アパートを狙う連続放火事件に関わっていくうちに消防の誇りを身につけ、殉職した消防士だった父の思いに気づいていく消防ミステリー小説です。出勤時以外は、貯水池の落ち葉の除去や地域住民への防火指導をして防災に努め、出勤命令が出れば食事中でも出勤をする消防士たち。常に住民を災害から守っている消防士には頭が下がる思いです。

適正タイプ

体力 ★★★★★
勇気 ★★★★★
第六感 ★★★★★